～此花区制100周年～

みゃくみゃくと！100年このはな

此花区は2025年（令和7年）4月1日に100歳を迎えます。
みゃくみゃく（脈々・ミャクミャク）と続いてきた、続いて行く、このはなのお話。

区役所×地域

新旧融合・共創で『住んでよかった』このはなへ

～SDGs先進区としてオンリーワンを目指す～

此花区長
中島 政人

此花区地域振興会 会長
岩井 政人

此花区制100周年を記念して、50年近く此花区を見続けてこられた地域振興会の岩井政人会長と、本年度より就任した中島政人区長の対談が実現。此花区の歴史や環境を見つめ、次の100年に向けて期待に満ちたお話を聞くことができました。

人情のまち、此花区

中島区長（以下中島）　此花区はどう変わったと感じますか？

岩井会長（以下岩井）　私が此花区に住み始めたのは1973年。当時は商店街も元気でした。USJができた時、此花区全体が潤うといわれていましたが、20年経ち、商店街はシャッターが目立つようになり、寂しくなりましたね。

中島　私は以前商業施設に携わる仕事をしていたこともあり、商店街が好きです。大規模商業施設は何でも揃い便利ですが、商店街には物を買うだけではなく、人とふれあう文化があります。そういう古き良き大阪の部分は残ってほしいですね。

岩井　人情豊かなまち、というのは当てはまると思います。商店街を歩いていると誰もが気さくに話し掛けますね。

現状と課題『つながり』

中島　会長が地域活動される中で、心掛けておられることは何ですか？

岩井　「つながり」を大事にすることですね。かつては各町会でやっていた夏祭りなどの行事も、今は連合単位。高齢者が増えて、参加者が減ってきているのが実情です。町会ごとに集まれば参加しやすく会話も弾むのですが、どんどん地域交流が少なくなっています。

中島　災害時に助け合おうと思っても、家族構成すらわからない場合もある。普段の関係性があってこその災害時の助け合いですから、つながり強化は今後の課題ですね。